資料９－３

八ツ瀬川河川整備計画（原案）へのご意見等について

（環境に関すること）

| 整理番号 | ご意見・ご提案（要旨） | 回答（案） |
|---|---|---|
| 1 | 小笠原らしさとして固有の動植物が多く生息している点がある。八ツ瀬川は小笠原最大の河川であり、生物量は特に多い。また河畔林も景観的に重要であり、これも八ツ瀬川らしさといえる。八ツ瀬川の貴重な動植物を保全する計画としていただきたい。 | 第３章第４節「河川環境の整備と保全に関する事項」のとおり、八ツ瀬川は固有種にとって貴重な空間であることから、魚類、水生植物等が生息・生育・繁殖できる良好な河川環境を人工的な改変および外来生物による侵略から守り、本来の八ツ瀬川らしい自然環境の保全・再生を目指していきます。 |
| 2 | 普段から川沿いを歩ける上、環境的にはとても良いと思っているので、河川工事を実施せずに維持管理を行っていくことについては賛成です。最近は外来種が増えてきているようなのでどうにか対応してほしいと思います。 | |
| 3 | 今回の計画策定によって、生息生物の保全・再生を目指していくこと方針に示されたことは、世界自然遺産小笠原の自然環境保全において重要な進展だと思います。<br>八ツ瀬川はオガサワラクロベンケイガニの最大の生息地ですが、過去のコンクリート護岸によって生息範囲が大幅に減少したことから、環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類となっています。このカニは川岸の土に巣穴を掘って生息しますが、堆積土に再生した生息地は、河川容量の維持のため定期的に浚渫することが強いられています。本種の生息地を再生するためには、本種が生息可能な堆積土分を含めた河川容量の確保が必要であり、今後の整備計画ではこの観点を含めた事業計画を求めます。<br>また、八ツ瀬川下流域は本来モモタマナやオオハマボウを優占種とする大規模な海岸林が成立していたと考えられ、特にモモタマナは小笠原では数少ない果肉をもつ種子をつけるため、オガサワラオオコウモリや甲殻類の重要な餌資源となっています。今後の河川整備においては、海岸林面積の積極的な回復計画を盛り込むことを要望します。 | |

| 整理番号 | ご意見・ご提案（要旨） | 回答（案） |
| --- | --- | --- |
| 4 | １．これまでの河川管理<br>　小笠原諸島返還（1968 年）後、河川は雨水の排水路と位置付けられ、溢水、洪水を防ぐことだけを目的に、流路の直線化、護岸工事による河岸の無生物化、場所によっては、護岸・河床の３面張りが行われてきた。八瀬川においても、長谷川との接続部での河床段差をつくり、右岸をコンクリート護岸化し、河口では河岸に並行していたものを、河口を最短直線化するための護岸ブロック設置が行われてきた。<br>1.1　その結果、山の土壌・養分が中流、下流の河川敷にもたらされた生物の生息している環境を破壊した。又、長谷川、時雨川から運搬された土砂が八瀬川で堆積、肥沃化していたものが、一挙に小港に流出され、小港湾内のサンゴ礁生息（特にコペペ海岸側）の衰退に影響を及ぼしていると思われる。<br>1.2　河口の護岸ブロックは、沈下、砂による埋設で小港海岸の利用者にとって、障害危険物となり、近年撤去された。<br>1.3　川岸は、カニ、エビ等の甲殻類、カワニナ等の水生貝類の生息地であり、川中にまだいるからよいという問題ではない。<br>1.4　人と川のかかわりを排除<br>　一部護岸（駐車場緑地）が斜面化され、人と水が親しむことができるようになったが、その下流では、１m高近い護岸が続き、歩道があるというものの、河川への接触は遮られている。人が親しみ愛される川の管理という理念が欠如している。<br><br>２．世界自然遺産地域における河川管理<br>　陸（山ー川）ー海の生態系を一体のものとしてとらえ、その一部である河川は、陸と海をつなぐ回廊であり、生物多様性を復活、保全するものでなければならない。<br>2.1　コンクリートで固めた護岸を自然護岸に近い状態に | 　整備にあたっては、良好な河川環境の保全や再生が図れる川づくりに努めてまいります。<br>　いただいたご意見は、河川環境及び河川維持に関する貴重なご意見として参考にさせていただきます。 |

| | | |
|---|---|---|
| | 戦前に作られた主に付近の石による積石護岸は石と石の間に隙間があり、川と護岸及び後背地にある農地との間で、灌漑、水の浸透・排水が適度に行われ、水生生物の住処でもある。このような護岸に改良することが望ましい。<br>2.2　直線河道にわんど（曲がった入江状の水面。）をつくり、流水のため池とし、流出入速度を抑え、水生生物の住処を復活させる。駐車場緑地はもともと曲がった水路敷跡と思われ適地であると考えられる。<br>2.3　汽水域生物の生息環境を守る<br>河口から潮の干潮により、海水が遡上する河川で２級河川として指定された逢瀬橋以下だけでなく、上流の長谷川（トンネル川に向きを変える辺りまで。）、時雨川（時雨ダム堤体直下辺りまで。）は河川の勾配が緩く蛇行し、一帯は低湿地であった。<br>海水、汽水域を住処とするボラなどの魚類や、淡水、汽水域に生息しているオガサワラヨヨシノボリやオオウナギなどの魚類、淡水エビ・カニ類が多くみられる。<br>それ故、浅い河川・河口をえさ場とするサギ、シギ、淡水カモ類の渡り鳥が多く集まってる。<br>低湿地では、オオハマボウ、海岸性のモモタマナが河畔林をつくり、河川内・河川敷には、シチトウイが繁殖している。シチトウイは外来種とされているが、水鳥に付着して父島に到着した広分布種とみるのが妥当であろう。水生生物によっては、オオハマボウ、モモタマナの枝が河川上にせり出して日陰をつくり、シチトウイの群落が、天敵の鳥類からの隠れ家となっている。<br>海洋島で、汽水域をもつ河川は大変少なく、小笠原諸島で唯一のものであり、生物多様性を守り復活させる管理が求められる。<br><br>３．人に利用され、敬愛される川に<br>3.1　利用の始まり<br>1830 年、人が定住をはじめて、海岸近く、淡水の得られる場所に住んでいた。八瀬川起点とされる逢瀬橋辺りは、「カナカタウン（キャナカタウン）」と呼ばれ、ハワイ太平洋諸島からの先住移民が住んでいた。ここは内陸でなく、八瀬川の汽水域をカノウ（カヌー）で上る海 | |

| | | |
|---|---|---|
| | 岸の奥という位置付けで利用していた。小港海岸は、ポカニュービートと呼ばれていたが、その範囲は、河口（現小港海岸コペペ海岸よりの端）から逢瀬橋辺りまでを指していたことで頷ける。<br>3.2　開拓<br>　欧米系先住民は、山地を開墾するのでなく、海岸の砂地、河川敷を利用し畑を耕し、主にタマネギ、トウモロコシ、サトウキビ栽培をしていたと考えられる。北袋澤では河川の蛇行で作られた土砂地の河川敷が利用された。<br>　幕府は、幕末文久年間の巡検後、八丈島島民を開拓民として扇浦を拠点として農業を始めた。その一部として、八瀬川の蛇行する河川敷で先住移民が使われなかったか放棄した場所でも作付けをした。<br>　明治期、日本領土として国際的に確定し、本格的な開拓が始まり八瀬川、長谷川、時雨川の低湿地は農業の拠点となり、ハスも栽培され、昭和戦前期には、内地出荷の換金作物でなく、自給できる米栽培が要請され、水田耕作も行われた。<br>3.3　返還後<br>　小笠原諸島返還（1868 年）後、戦前住んでいた農家が、家も建て自力再開墾し農業を再開、その後他の農家も大村から通勤農業を始め、現在、多数の農地で作物栽培が行われている。山からの水とそれが運ぶ土壌が肥料となり河川のそばで井戸も使えたことは重要である。<br><br>４　まとめ<br>　都市河川のような川と陸地間の雨水、汽水域の遡上水を分断するのではなく、自然河川の本来の機能を復活、維持し、生物多様性を復元・維持し、河川近緑の農地の河川依存機能を損なわずに河川氾濫による周辺住宅等の溢水等を防ぐことが基本的に求められることである。<br>　これは、２級河川八瀬川に止まらず、その上流、支流の北袋澤内河川管理も含めて考えるべきことである。又、河川と並走している道路管理においても、道路の沢横断、排水路等の道路排水についても、同様に考えるものである。 | |

| 整理番号 | ご意見・ご提案（要旨） | 回答（案） |
| --- | --- | --- |
| 5 | 八ツ瀬川を利用する生物において、アカガシラカラスバト、オガサワラオオコウモリが欠落しています。主な生き物に記載されている植物や、他生物と比較して遜色ない環境配慮すべき保全対象種と考えます。これらの種をリストに追加して、かつ、環境配慮及び環境創出について検討を加えることを意見します。<br>八ツ瀬川及び、水際、至近の河川敷は、肥沃で植物の生産性が非常に高く、オオコウモリなどの希少鳥獣にとって父島内でも特に重要な、通年した餌利用地となっています。本来、逢瀬橋付近より、小港海岸まで続いていたと考えられるモモタマナを主体とした海岸林・河畔林では、現在、孤立・分断化が進んでいます。モモタマナ等の高木は点在、散在するのみとなり、連続性を欠いた空隙は、外来樹木や外来草本類が侵入する温床となっています。直接的には、モモタマナ等の消失により、オオコウモリの餌資源が減少しています。さらに、水際の日陰の連続性が失われていることで、乾燥化が進み、河川の水量や水質にも影響するシュロガヤツリなどの外来草本類や外来の水草等が占有しやすい環境がつくりだされています。本事業実施にあたり、その下流域における流域植生の管理について、検討する場の創出を希望します。 | 魚類、水生植物等が生息・生育・繁殖できる良好な河川環境を人工的な改変および外来生物による侵略から守り、本来の八ツ瀬川らしい自然環境の保全・再生を目指していきます。<br>また、アカガシラカラスバト、オガサワラオオコウモリを主な生き物に追記しました。 |
| 6 | 希少な動植物について、住民に周知を図るべきだと思う。この大切な自然を後世にしっかりと残していってほしい。 | 第２章第３節「河川環境の整備と保全に関する事項」において、八ツ瀬川に見られる主な動植物を一覧にまとめております。<br>また、本計画は「人々の生活と調和しつつ、貴重な自然が後生においても保全される川をめざして」を基本理念として、治水上の安全性を確保するとともに、地域住民と協働して河川環境の保全に努めた川づくりを進めていきます。 |

（河川利用に関すること）

| 整理番号 | ご意見・ご提案（要旨） | 回答（案） |
|---|---|---|
| 7 | 川遊びといえば八ツ瀬川だと思います。サップやカヤックなどが楽しめる川にしてください。 | 第３章第４節「河川環境の整備と保全に関する事項」のとおり、良好な河川環境と一体となった河川景観・親水空間の保全・創出に努めていきます。 |
| 8 | 普段、星景写真の撮影で　八瀬川～小港海岸を利用しています。<br>撮影ポイント及びその道中は当然暗い方が良いのですが、遊歩道に蓄光タイルくらいの明るさの道案内があると助かります。これがあればハンドライトでむやみに光を拡散させずにいられます。<br>逆にフットライト等の照明は設置してほしくないです。 | いただいたご意見は、河川施設の維持管理を図るための貴重なご意見として、参考にさせていただきます。 |

（防災に関すること）

| 整理番号 | ご意見・ご提案（要旨） | 回答（案） |
|---|---|---|
| 9 | 民宿鉄や～小港ロータリー間の道が狭いです。台風後ここは復旧に時間がかかります。バスのルートにもなってるため、復旧作業の際はスムーズではないです。車両確保、倒木、残土等の一時仮設スペースが欲しいです。 | いただいたご意見は、河川維持に関する貴重なご意見として参考にさせていただきます。 |